

2. 教育本部執行方針（案）

ここ数年は、「指向別研修会」の充実、「会員ニーズに応えるべく事業の企画・実施」、「専門委員のレベルアップによる会員へのサービス向上」等を基本方針としアンケート等の声を反映しながら各事業の改善に取り組んでまいりました。

今期事業計画としては基本方針を継続すると共に「各事業の内容の充実化及び効率化」、「スキー本来の楽しさをたくさんの方々に味わっていただく」を基本に取り組んでいきます。

各事業の充実について

- ・ 車山 行事の日程を変更し参加者分散化を図り内容の充実に努めます。
- ・ 指導員研修会、検定員クリニック及び指導員養成講習会等は参加者の意見を活かし、現状の問題点の改善に努めます。
- ・ 現行3回実施していますBC級検定員検定会を2回とし、事業の効率化を図ります。

選手育成と技術選手権大会の運営について

- ・ SAK選手の「SAJ出場目標」を高めるため、強化合宿などを見直し、強化に努めます。
- ・ 第1回神奈川県・千葉県スキー技術選手権は共催で開催し、技術交流等大きな成果を残しました。今後、更に運営の充実に努めます。
- ・ 富士山を囲む県（神奈川、静岡等）でのプレ技術選手権大会を実施し、今後の足がかりをつかむことができました。今期正式行事として開催を提案し、技術的交流を深め選手育成に努めます。

北海道行事について

- ・ 昨年は総務本部と連携しながら若手指導員、専門委員を活用した結果、大幅な参加者増となりました。今年度も更に内容を検討し、より参加しやすくなるよう努めます。

ハンディキャップスキー講習会とレベルアップ講習会の内容の充実について

- ・ ハンディキャップスキーはHC委員会と連携しながら級別テスト、講習会を実施し、研修会参加の指導員の協力を得て大きな成果を残しました。今後も障害に配慮しながらHC委員会の行事運営を後押しし連携を図ります。
- ・ レベルアップ講習会は将来とも県下のスキー普及拡大に寄与すると思われます。参加者のレベル差の問題を改善しながら運営に努めます。

SAK 専門委員のレベルアップについて

- ・ SAK専門委員制度は、事業運営に大きな貢献をしており引き続き技術的なレベルアップが必要です。会員の期待に応えられる研修内容とするため努力致します。
- ・ 教育専門委員が競技の場でも活躍できるよう競技本部と連携します。